

東京の緑・景観・屋外広告物に関する世論調査〈概要〉

令和6年3月

調査実施の概要

1 調査目的

東京の緑・景観・屋外広告物に関する都民の意識や要望を把握し、今後の施策推進の参考とする。

2 調査項目

- (1) 東京の緑
- (2) 東京の景観
- (3) 東京の屋外広告物

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
 - (2) 標本数：4,000標本
 - (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
 - (4) 調査方法：郵送法（郵送送付・郵送回収、WEB〔インターネット〕回答併用）
 - (5) 調査期間：令和5年11月10日～12月3日
 - (6) 調査実施機関：一般社団法人輿論科学協会
- （注）「東京の緑・景観・屋外広告物に関する世論調査」（平成24年）までは、3,000標本、個別訪問面接聴取法で実施

4 回収結果

- (1) 有効回収標本数（率） 1,775標本（44.4%）〔うち郵送1,103標本、インターネット672標本〕
- (2) 未完了標本数（率） 2,225標本（55.6%）

調査結果の概要

※nは質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。

※個々の比率の合計は、全体の計に一致しないことがある。

※M. A. はいくつでも選択、3M. A. は3つまで選択

※M. T. は回答の合計をnで割った比率

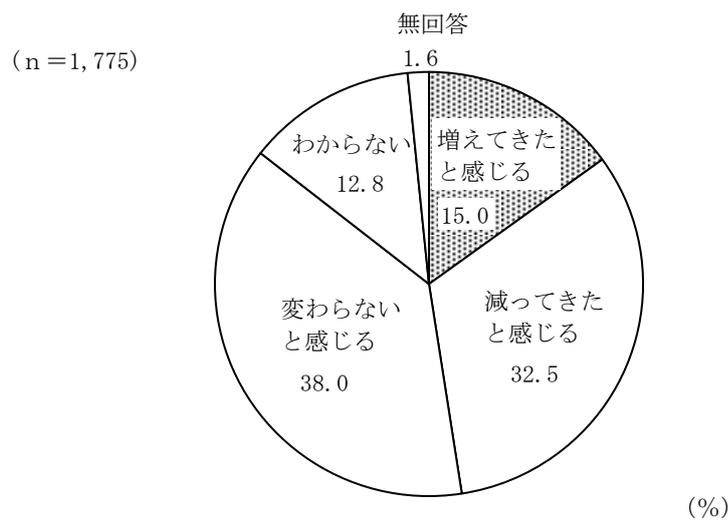
※平成24年までの調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回から郵送法（インターネット回答併用）に変更したため、調査結果を単純に比較することはできないので留意が必要

1 東京の緑

(1) 東京の緑の変化：東京の緑の量が以前に比べてどのようになったと感じるか聞いた。

(本文P3～P4)

- ・「増えてきたと感じる」は15%
- ・「減ってきたと感じる」は33%
- ・「変わらないと感じる」は38%

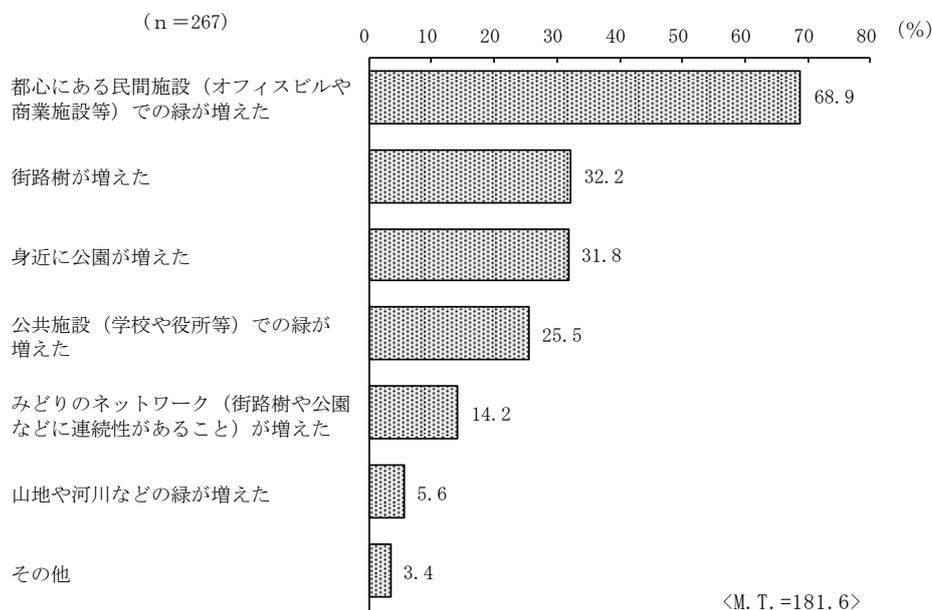


(2) 東京の緑が増えたと感じる点：東京の緑が「増えてきたと感じる」と答えた人（267人）に、
 どのような点から、東京の緑が増えてきたと感じるか聞いた。

(M. A.)

(本文P5～P6)

- ・「都心にある民間施設（オフィスビルや商業施設等）での緑が増えた」が69%でトップ
- ・「街路樹が増えた」「身近に公園が増えた」32%が続く

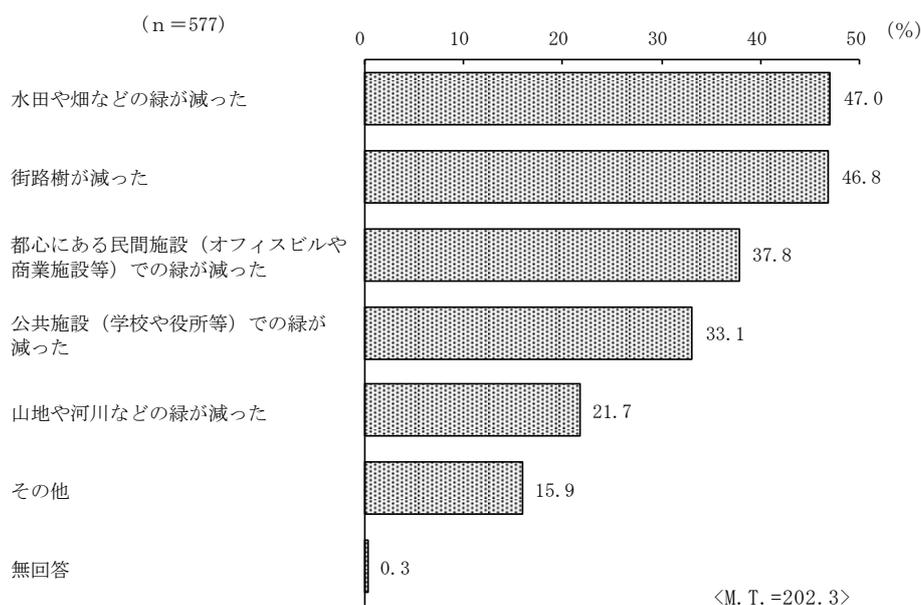


(3) 東京の緑が減ったと感じる点：東京の緑が「減ってきたと感じる」と答えた人（577人）に、
 どのような点から、東京の緑が減ってきたと感じるか聞いた。

(M. A.)

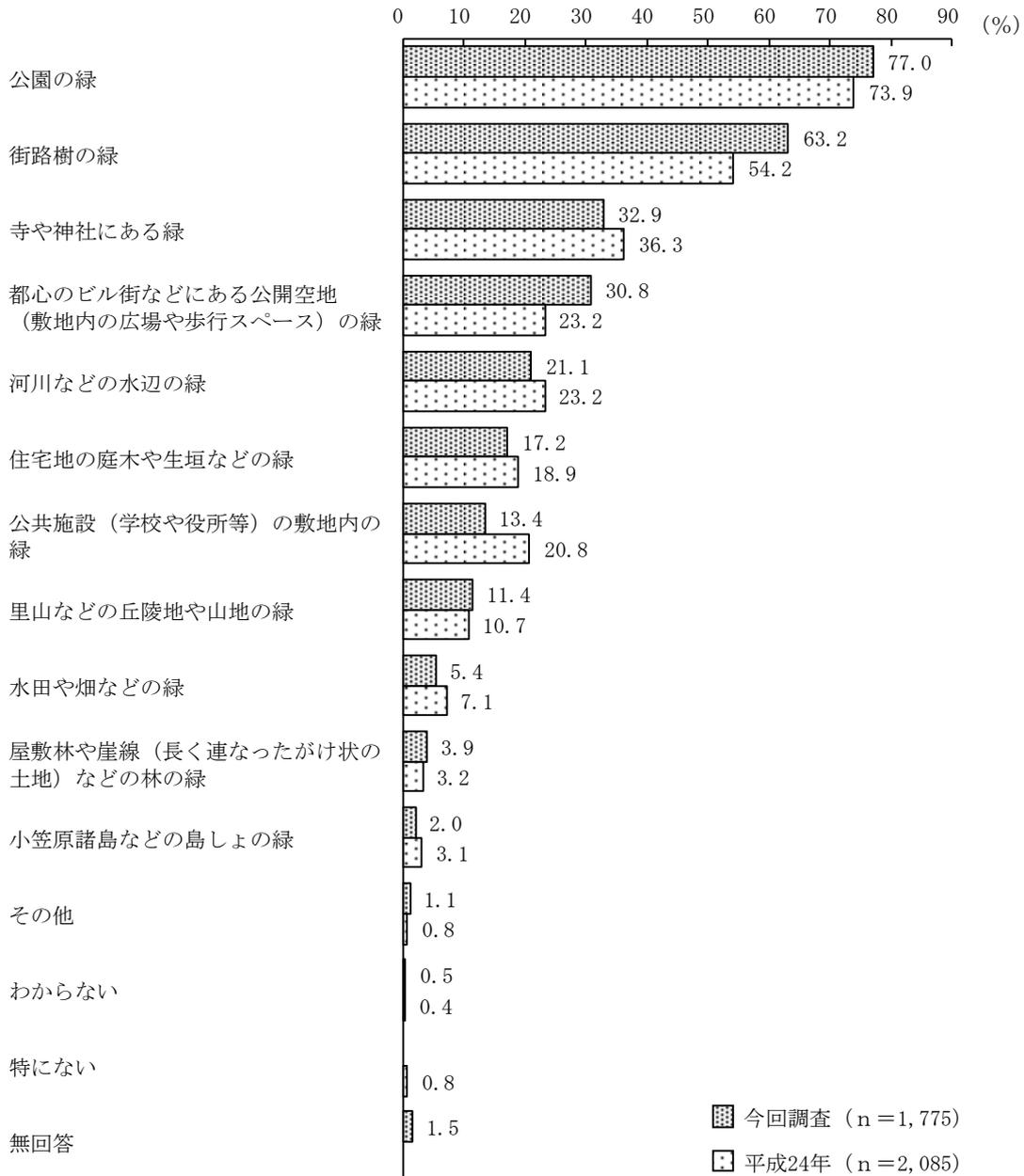
(本文P7～P8)

- ・「水田や畑などの緑が減った」「街路樹が減った」が47%
- ・「都心にある民間施設（オフィスビルや商業施設等）での緑が減った」38%が続く



(4) 東京の緑について思い浮かべるもの：東京の緑について、思い浮かべるものを聞いた。(3M. A.)
 (本文P9～P12)

- ・「公園の緑」が77%でトップ（平成24年より3ポイント増加）
- ・「街路樹の緑」63%、「寺や神社にある緑」33%が続く



(注1) 「都心のビル街などにある公開空地 (敷地内の広場や歩行スペース) の緑」は平成24年では「オフィスビルなどの公開空地 (敷地内の広場や歩行スペース) の緑」、「住宅地の庭木や生垣などの緑」は平成24年では「庭木や生垣などの住宅地の緑」、「公共施設 (学校や役所等) の敷地内の緑」は平成24年では「学校や公共施設の敷地内の緑」、「水田や畑などの緑」は平成24年では「田や畑などの緑」

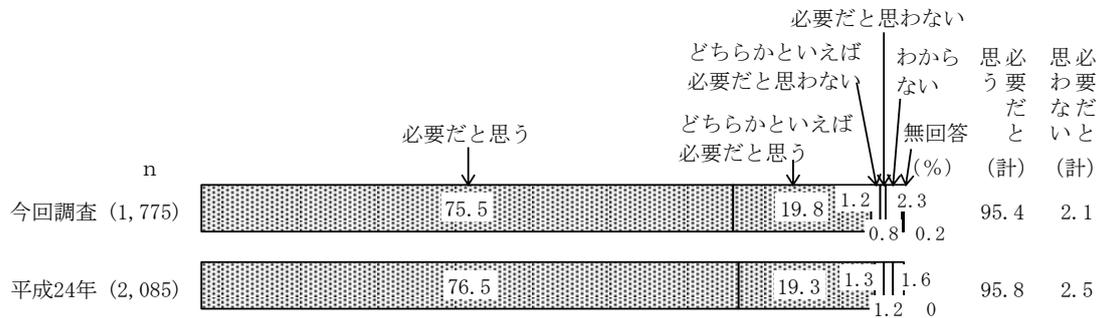
(注2) 「特にない」は平成24年の選択肢

(注3) 平成24年の調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回からは郵送法 (インターネット回答併用) に変更したため留意が必要

(5) 東京の緑の必要性：東京の緑を増やしたり保全することは必要だと思うか聞いた。

(本文 P13～P14)

- ・『必要だと思う (計)』は 95%
- ・『必要だと思わない (計)』は 2%



(注1) 『必要だと思う (計)』は「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」の合計

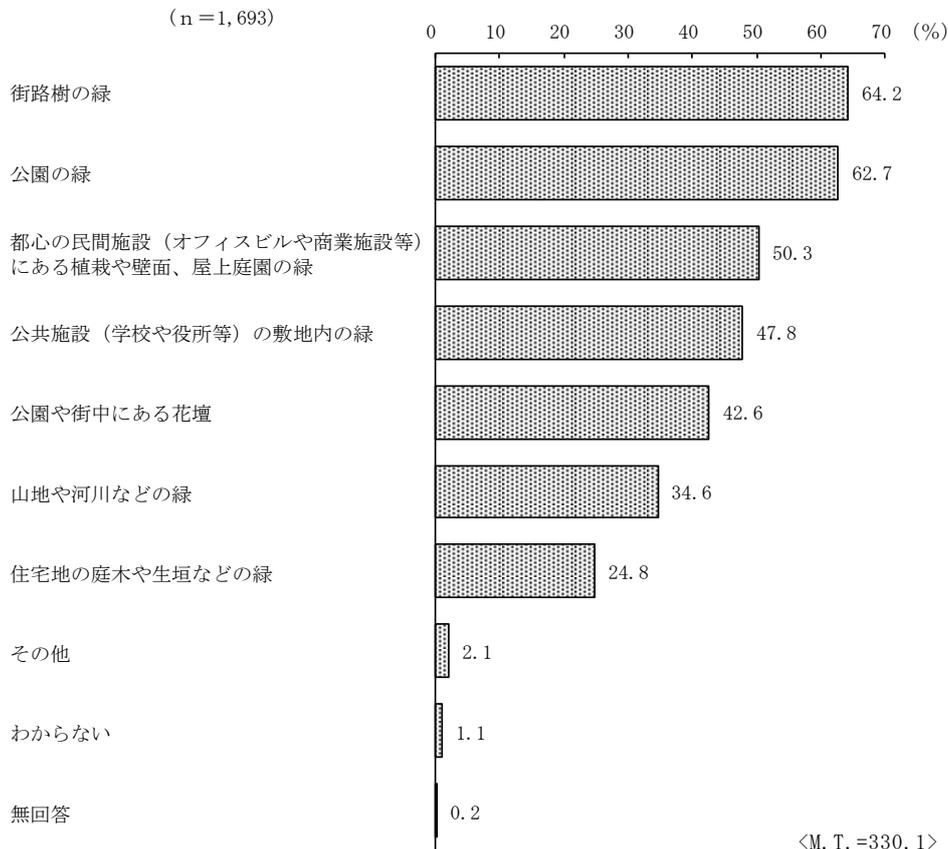
『必要だと思わない (計)』は「必要だと思わない」「どちらかといえば必要だと思わない」の合計

(注2) 平成24年の調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回からは郵送法（インターネット回答併用）に変更したため留意が必要

(6) 増やしたい緑：東京の緑を増やしたり保全することは必要だと思う、またはどちらかといえば必要だと思うと答えた人 (1,693 人) に、どのような緑を増やしたほうが良いと思うか聞いた。(M. A.)

(本文 P15～P16)

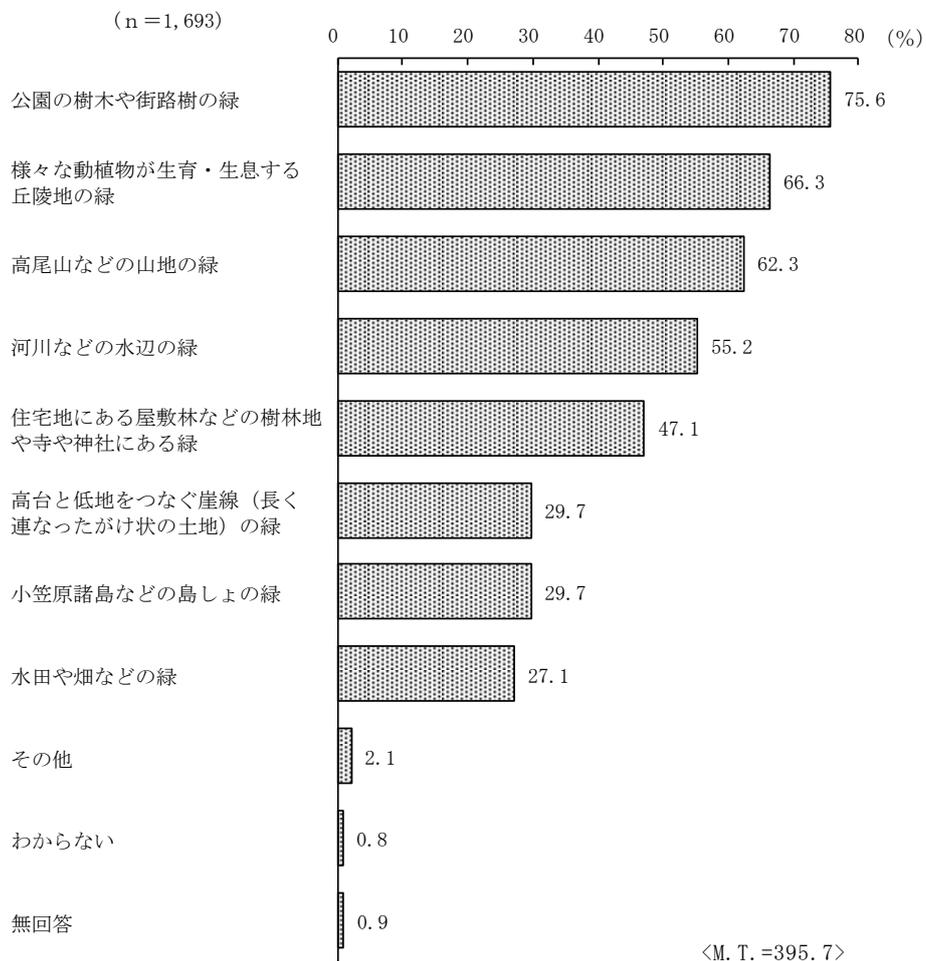
- ・「街路樹の緑」が 64% でトップ
- ・「公園の緑」63%、「都心の民間施設（オフィスビルや商業施設等）にある植栽や壁面、屋上庭園の緑」50%が続く



(7) 保全したい緑：東京の緑を増やしたり保全することは必要だと思う、またはどちらかといえば必要だと思うと答えた人（1,693人）に、どのような緑を保全したほうが良いと思うか聞いた。（M. A.）

（本文P17～P18）

- ・「公園の樹木や街路樹の緑」が76%でトップ
- ・「様々な動植物が生育・生息する丘陵地の緑」66%、「高尾山などの山地の緑」62%が続く

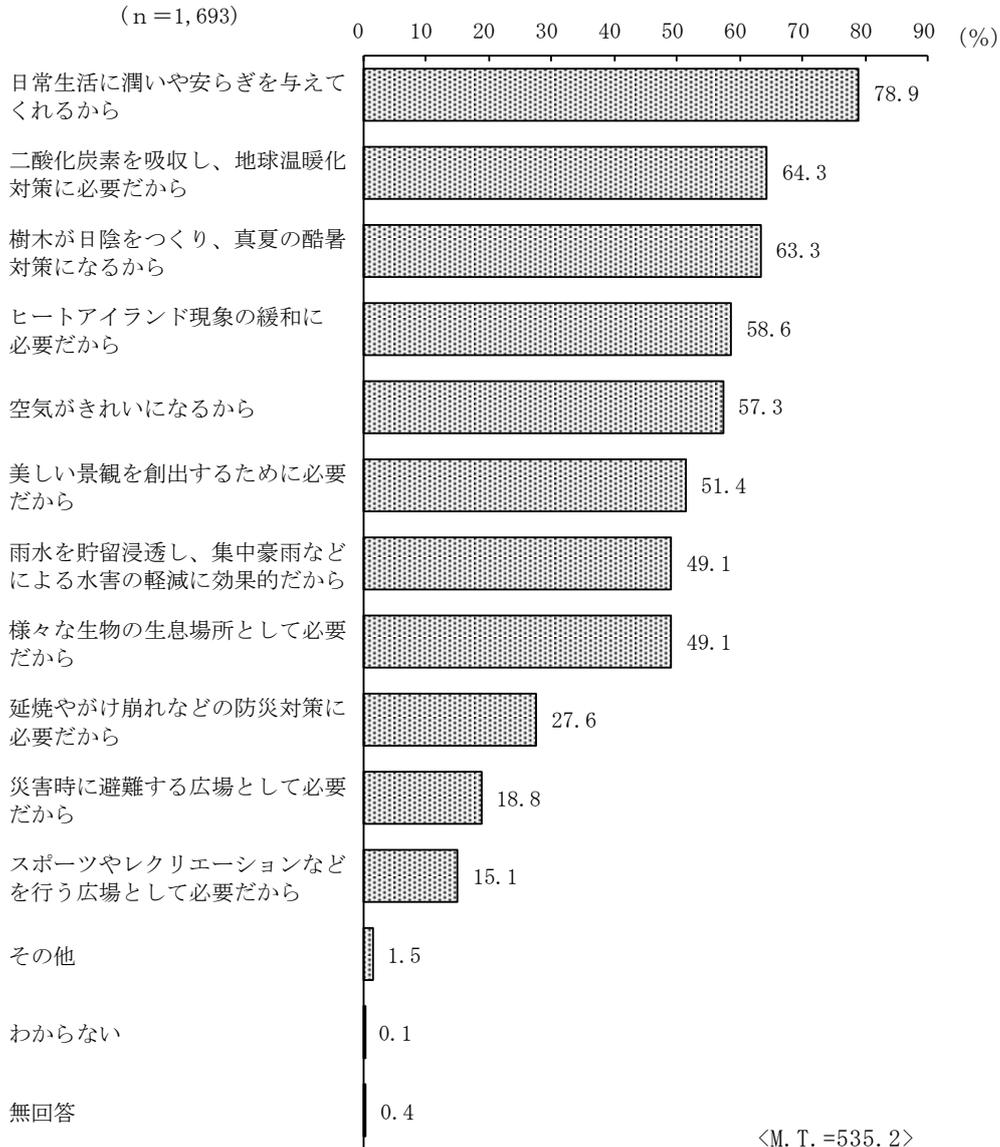


(8) 東京の緑が必要な理由：東京の緑を増やしたり保全することは必要だと思う、またはどちらかといえば必要だと思うと答えた人（1,693人）に、その理由を聞いた。

(M. A.)

(本文 P19～P20)

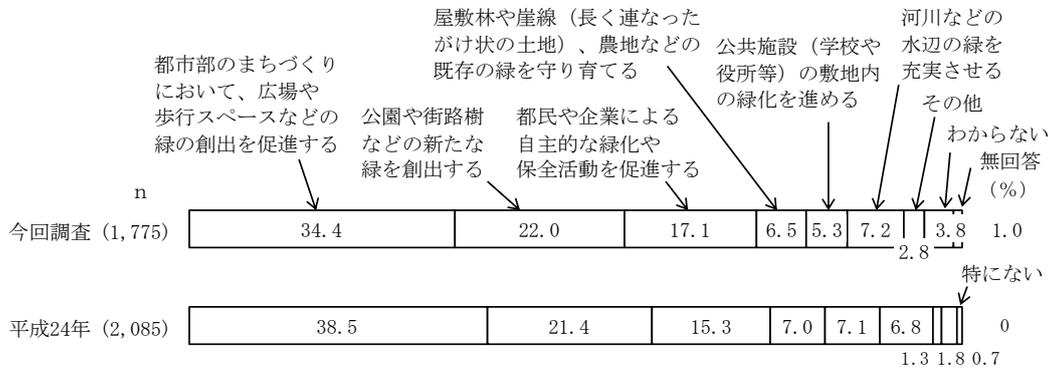
- ・「日常生活に潤いや安らぎを与えてくれるから」が79%でトップ
- ・「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化対策に必要なだから」64%、「樹木が日陰をつくり、真夏の酷暑対策になるから」63%が続く



(9) 東京の緑を豊かにするために重要なこと：東京の緑をより豊かにするためにどのような取組が重要だと思うか聞いた。

(本文 P21～P24)

- ・「都市部のまちづくりにおいて、広場や歩行スペースなどの緑の創出を促進する」が34%でトップ
- ・「公園や街路樹などの新たな緑を創出する」22%、「都民や企業による自主的な緑化や保全活動を促進する」17%が続く



(注1) 「都市部のまちづくりにおいて、広場や歩行スペースなどの緑の創出を促進する」は平成24年では「都市開発などのまちづくりにおいて、広場や歩行スペースなどの緑の創出を促進する」、「屋敷林や崖線（長く連なったがけ状の土地）、農地などの既存の緑を守り育てる」は平成24年では「屋敷林、崖線（長く連なったがけ状の土地）や農地などの既存の緑を守り育てる」、「公共施設（学校や役所等）の敷地内の緑化を進める」は平成24年では「学校や公共施設の敷地内の緑化を進める」

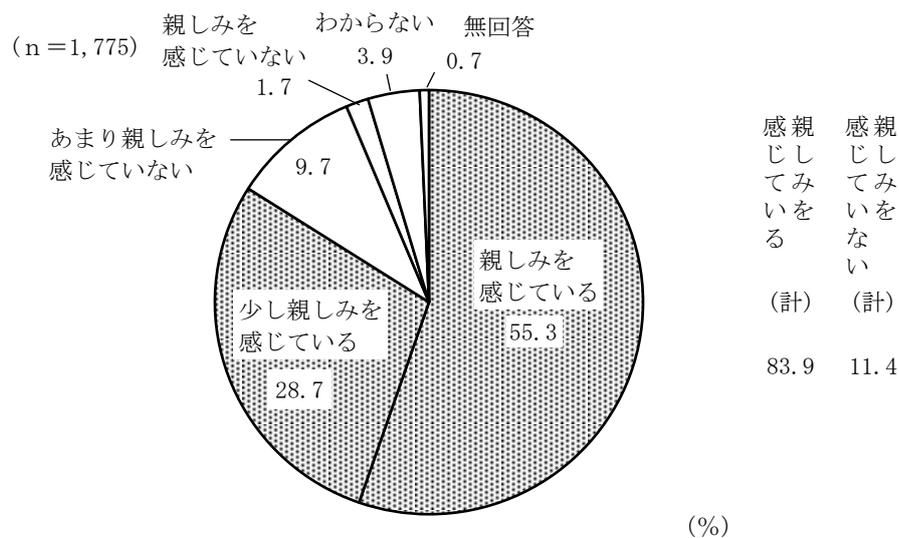
(注2) 「特になし」は平成24年の選択肢

(注3) 平成24年の調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回からは郵送法（インターネット回答併用）に変更したため留意が必要

(10) 東京の緑への親しみ：東京の緑（公園や森林等）に親しみを感じているか聞いた。

(本文 P25～P27)

- ・『親しみを感じている（計）』は84%
- ・『親しみを感じていない（計）』は11%

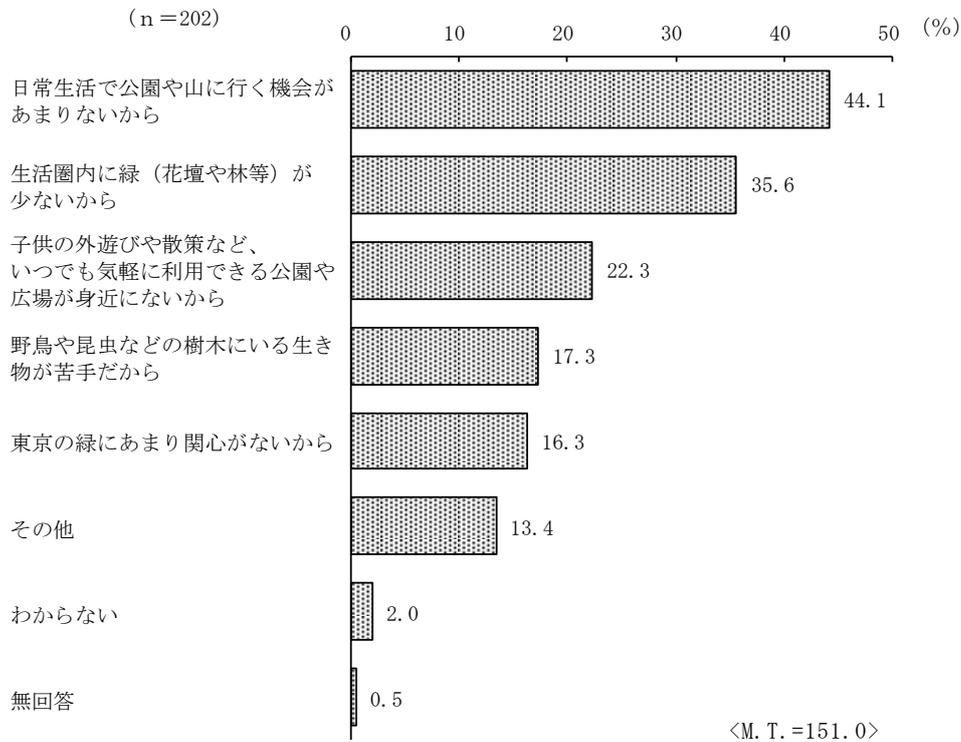


(注) 『親しみを感じている（計）』は「親しみを感じている」「少し親しみを感じている」の合計
 『親しみを感じていない（計）』は「親しみを感じていない」「あまり親しみを感じていない」の合計

(11) 東京の緑に親しみを感ぜない理由：東京の緑（公園や森林等）に「あまり親しみを感ぜていない」「親しみを感ぜていない」と答えた人（202人）に、その理由を聞いた。（M. A.）

（本文P28～P29）

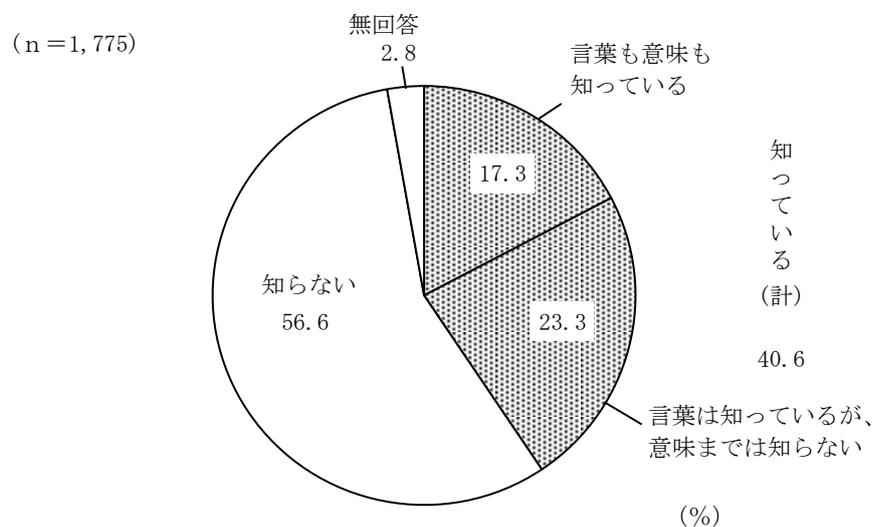
- ・「日常生活で公園や山に行く機会があまりないから」が44%でトップ
- ・「生活圏内に緑（花壇や林等）が少ないから」36%、「子供の外遊びや散策など、いつでも気軽に利用できる公園や広場が身近にないから」22%が続く



(12) グリーンインフラの認知：「グリーンインフラ」という言葉を知っているか聞いた。

（本文P30～P32）

- ・『知っている（計）』は41%
- ・「知らない」は57%

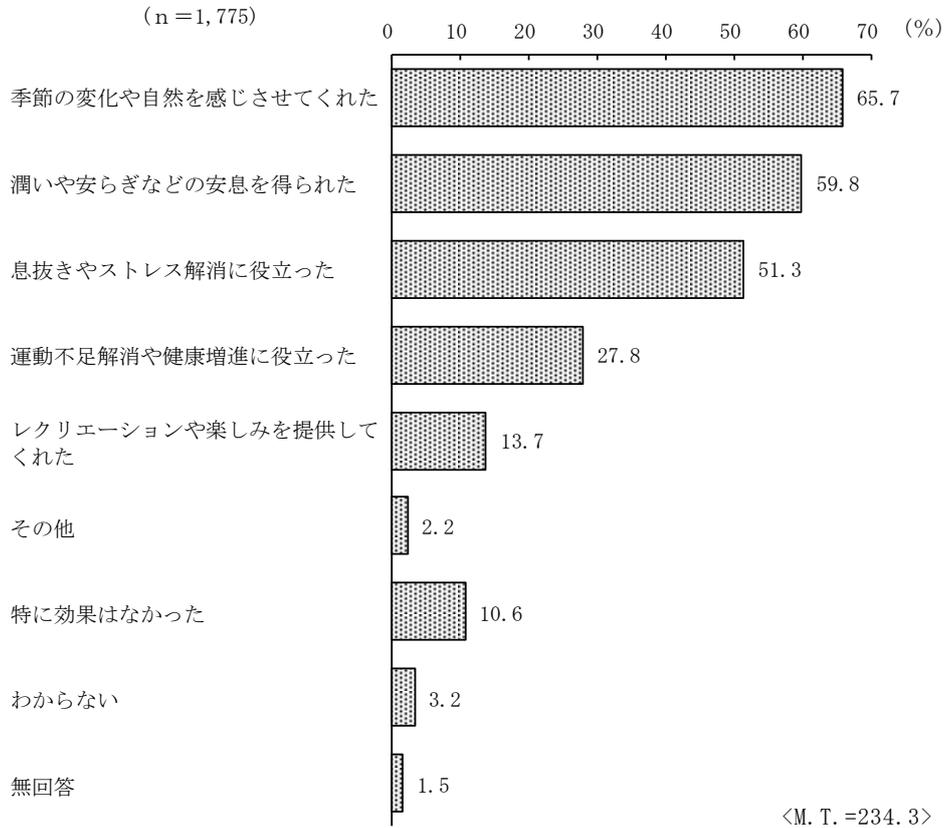


（注）『知っている（計）』は「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが、意味までは知らない」の合計

(13) コロナ禍での屋外空間の役割・効果：行動制限のあったコロナ禍において、緑のある屋外空間（公園や緑道等）は、生活にどのような役割・効果があったと思うか聞いた。（M. A.）

（本文 P 33～ P 35）

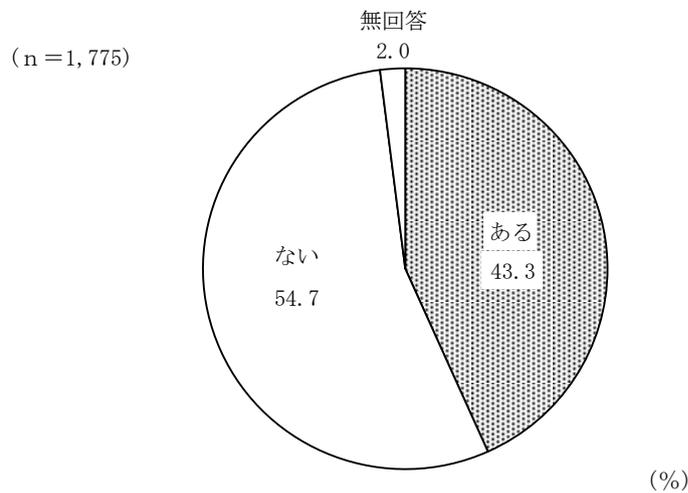
- ・「季節の変化や自然を感じさせてくれた」が 66% でトップ
- ・「潤いや安らぎなどの安息を得られた」60%、「息抜きやストレス解消に役立った」51%が続く



(14) 緑を増やすことや保全するための行い：緑を増やすことや保全することに関して、何か行っていることはあるか聞いた。

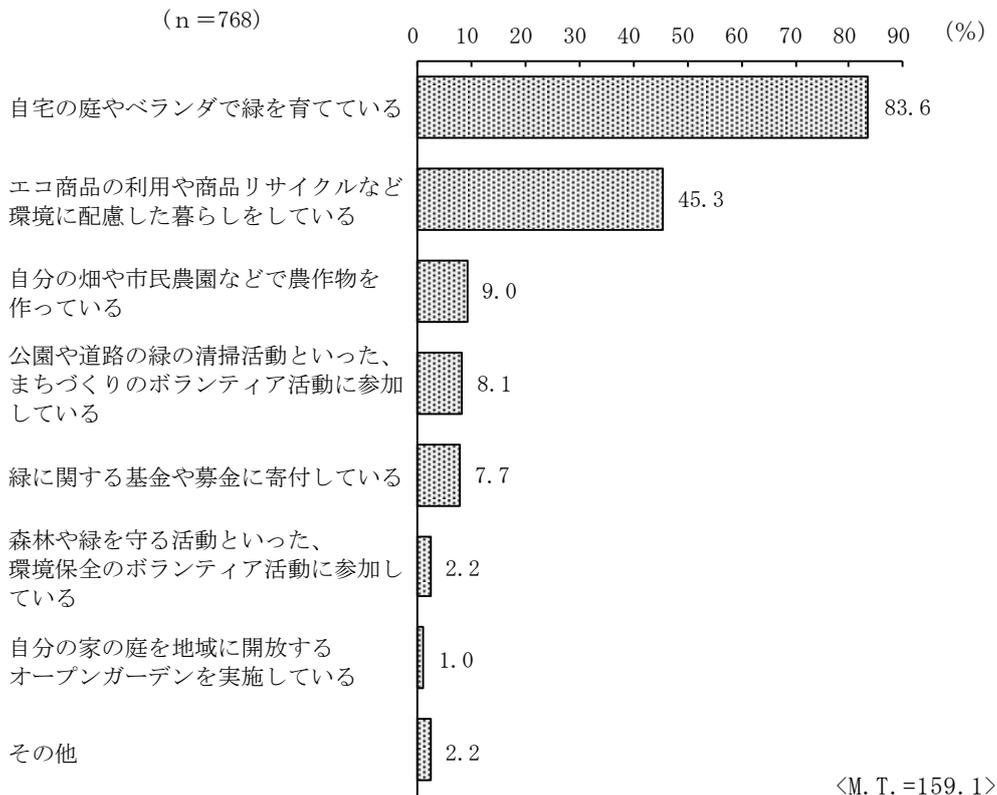
（本文 P 36～ P 38）

- ・「ある」は 43%
- ・「ない」は 55%



(15) 緑を増やすことや保全するために行っていること：緑を増やすことや保全することに関して行っていることが「ある」と答えた人（768人）に、行っていることを聞いた。（M. A.）
 （本文 P 39～P 41）

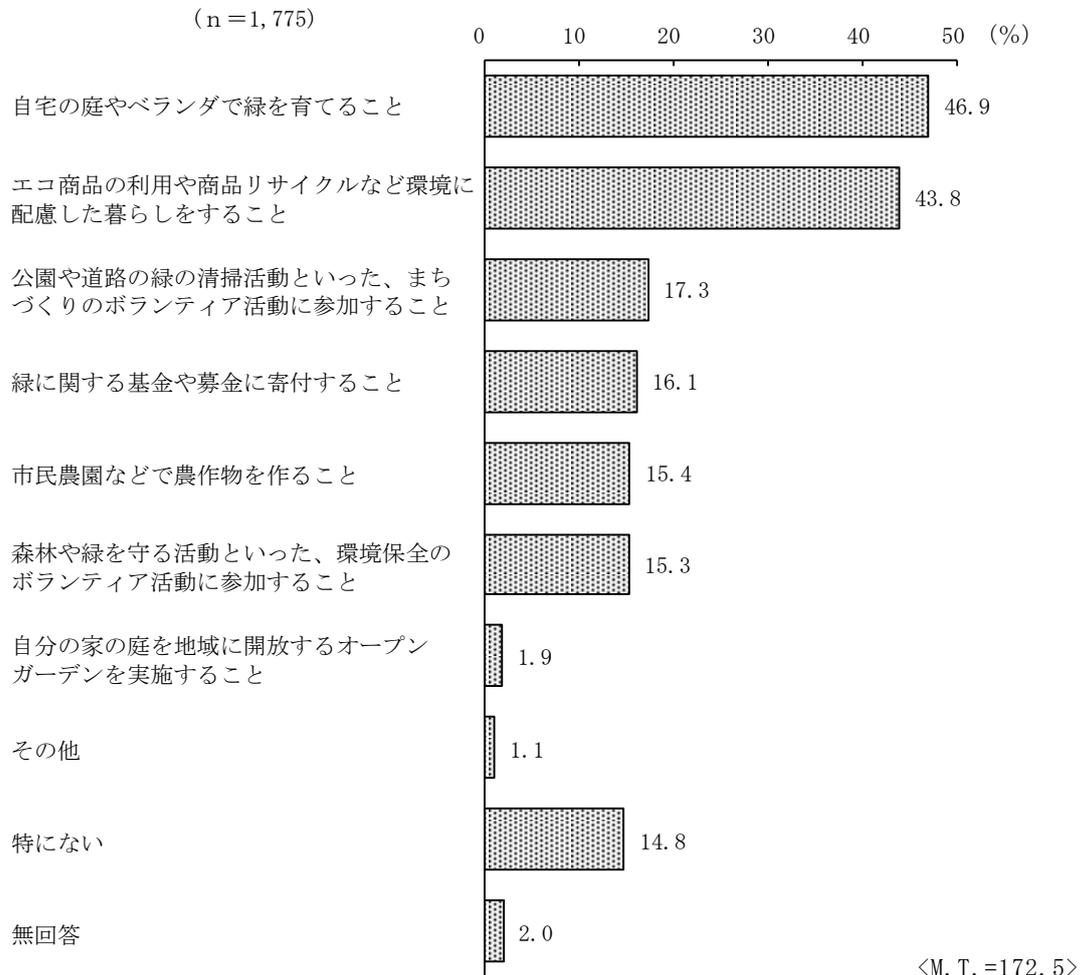
- ・「自宅の庭やベランダで緑を育てている」が84%でトップ
- ・「エコ商品の利用や商品リサイクルなど環境に配慮した暮らしをしている」45%、「自分の畑や市民農園などで農作物を作っている」9%が続く



(16) 緑を増やすことや保全するために行いたいこと：今後、緑を増やすことや保全することに関して行ってみたいと思うことを聞いた。(M. A.)

(本文P42～P44)

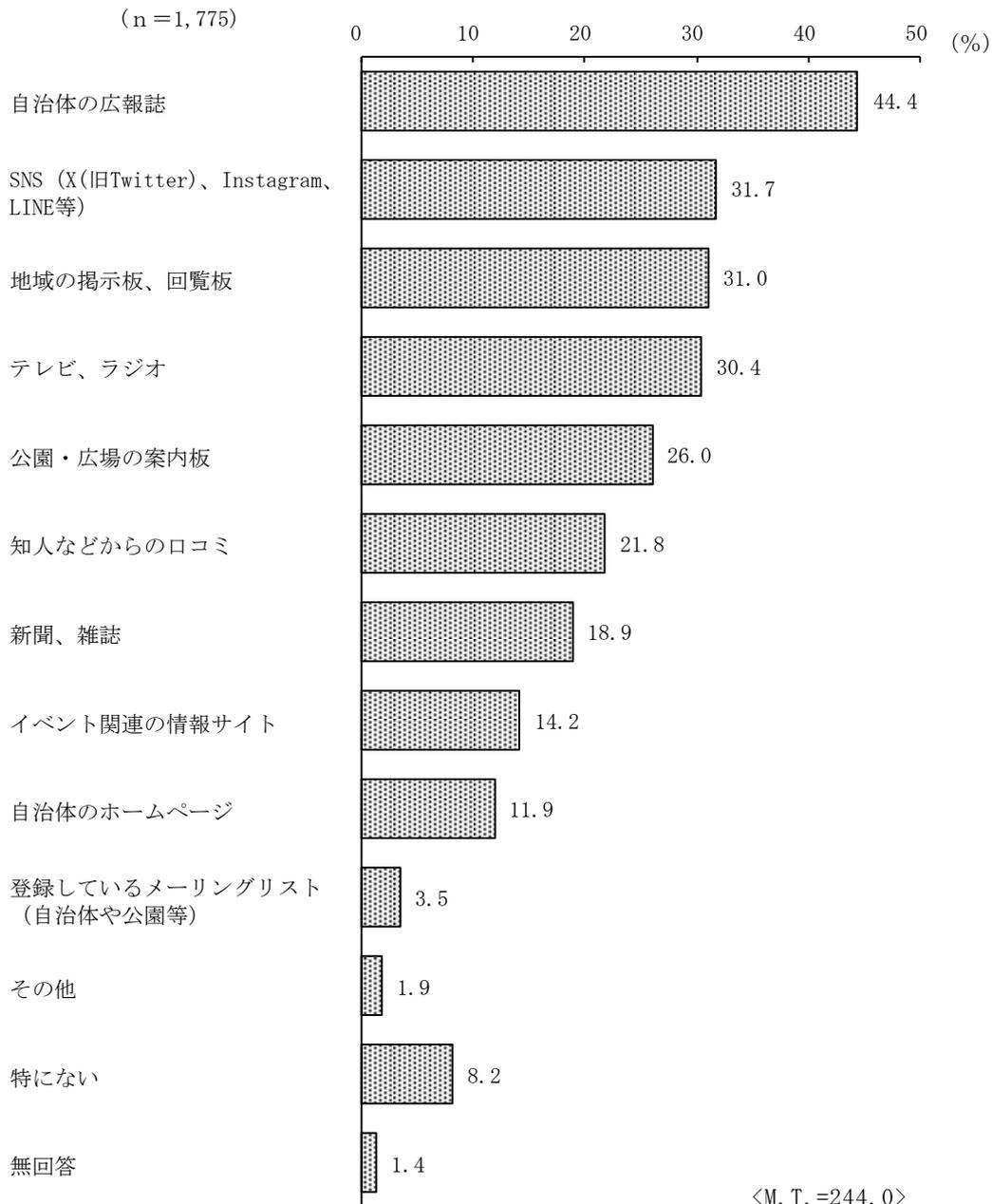
- ・「自宅の庭やベランダで緑を育てること」が47%でトップ
- ・「エコ商品の利用や商品リサイクルなど環境に配慮した暮らしをすること」44%、「公園や道路の緑の清掃活動といった、まちづくりのボランティア活動に参加すること」17%が続く



(17) イベント等情報の入手媒体：公園や広場で行われるイベント等に参加する際、どの媒体から情報を入手するか聞いた。(M. A.)

(本文P45～P47)

- ・「自治体の広報誌」が44%でトップ
- ・「SNS (X(旧Twitter)、Instagram、LINE等)」32%、「地域の掲示板、回覧板」31%が続く

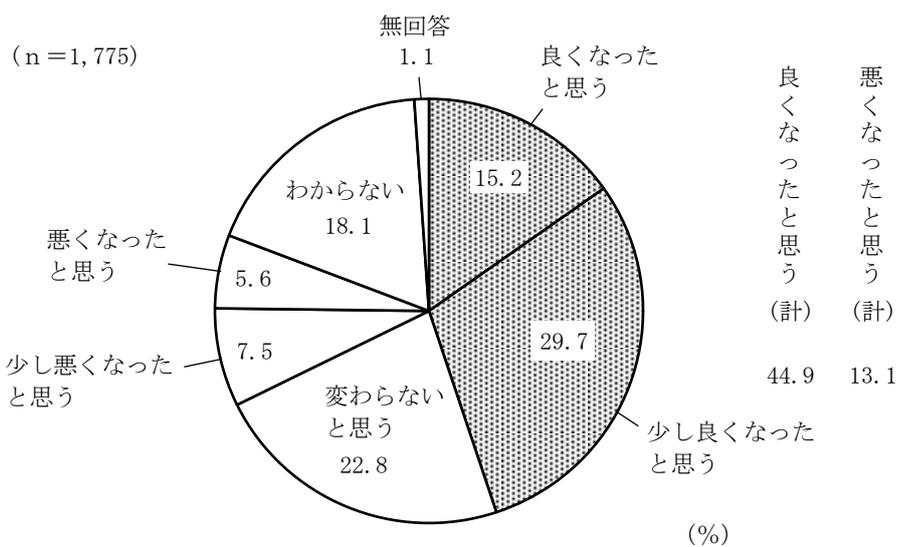


2 東京の景観：

(1) 東京の都市景観の変化：東京の都市景観は以前（おおむね 10 年前）と比べて良くなったと思うか聞いた。

(本文 P 48～ P 49)

- ・『良くなったと思う（計）』は 45%
- ・『悪くなったと思う（計）』は 13%
- ・「変わらないと思う」は 23%

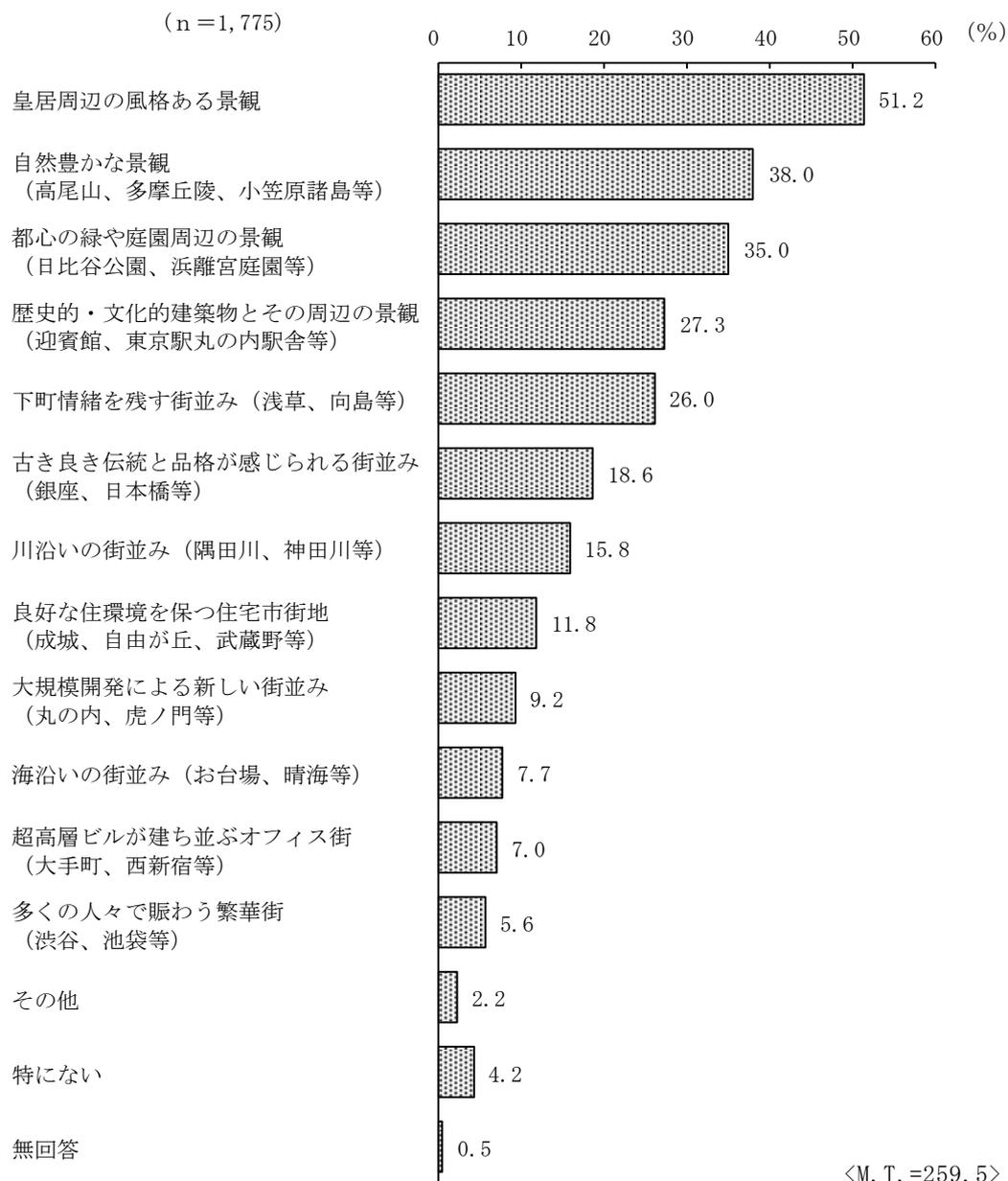


(注) 『良くなったと思う（計）』は「良くなったと思う」「少し良くなったと思う」の合計
 『悪くなったと思う（計）』は「悪くなったと思う」「少し悪くなったと思う」の合計

(2) 魅力を感じる景観・街並み：東京都内で、特に魅力を感じる景観・街並みはどのようなところか聞いた。(3M. A.)

(本文P50～P51)

- ・「皇居周辺の風格ある景観」が51%でトップ
- ・「自然豊かな景観（高尾山、多摩丘陵、小笠原諸島等）」38%、「都心の緑や庭園周辺の景観（日比谷公園、浜離宮庭園等）」35%が続く

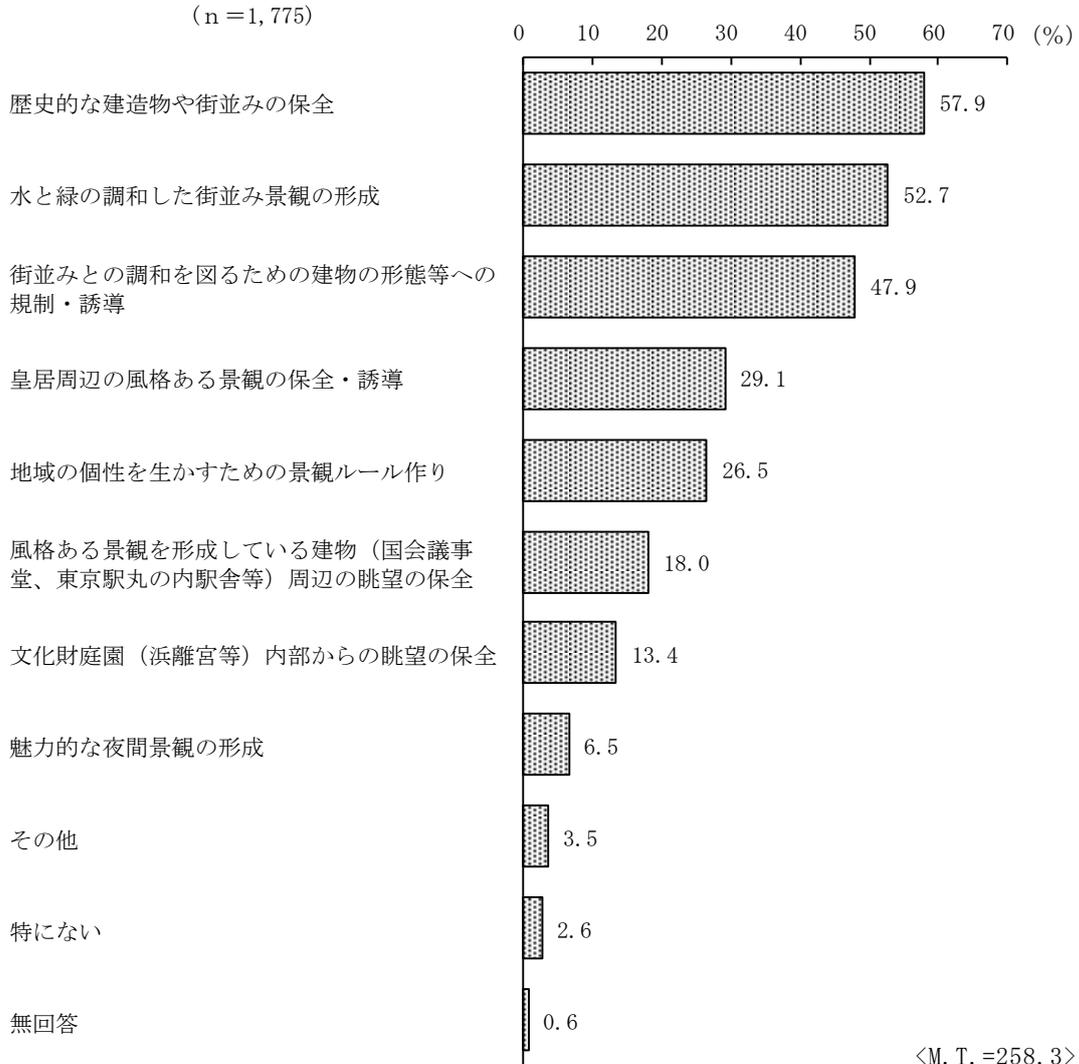


(3) 東京の都市景観を守り育てるための都の施策：東京の都市景観を守り育てるために、都が今後も積極的に取り組んだ方がいいと思う施策を聞いた。

(3M. A.)

(本文 P52～P53)

- ・「歴史的な建造物や街並みの保全」が 58% でトップ
- ・「水と緑の調和した街並み景観の形成」53%、「街並みとの調和を図るための建物の形態等への規制・誘導」48%が続く

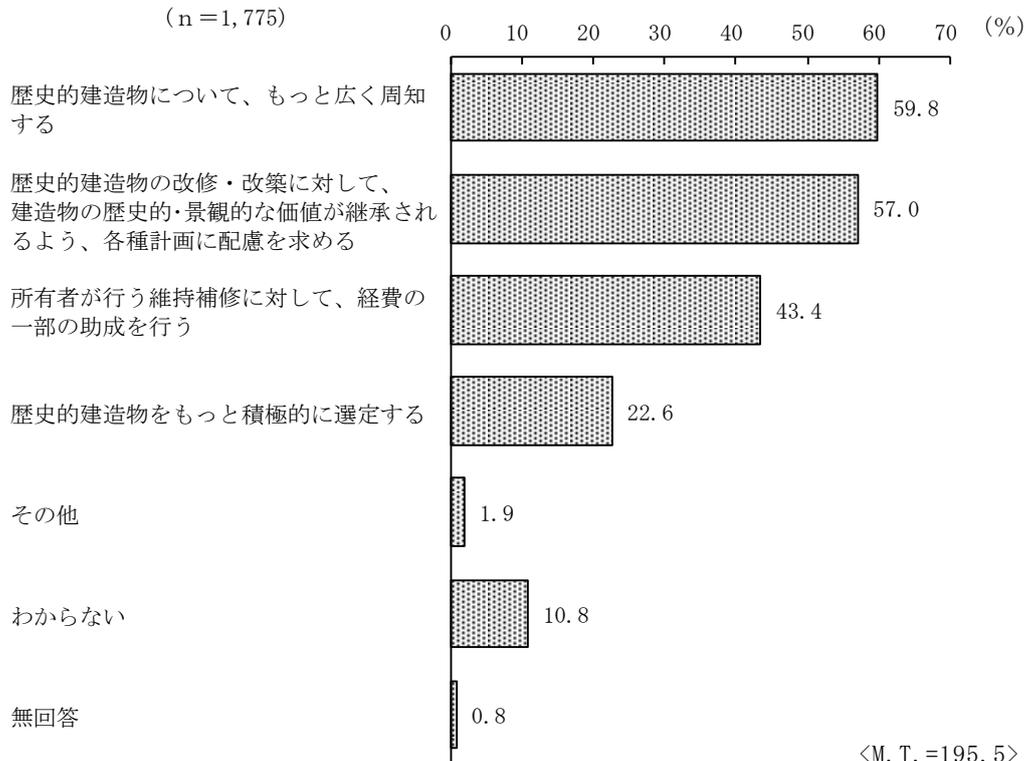


(4) 東京都選定歴史的建造物についての都の施策：東京都選定歴史的建造物について、都はどのような施策に取り組むべきだと思うか聞いた。

(M. A.)

(本文 P 54～ P 56)

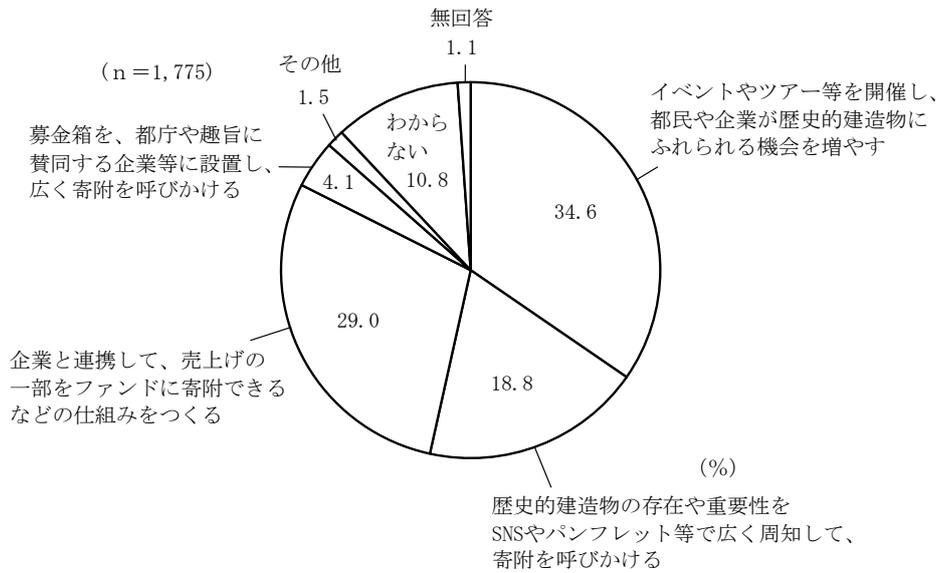
- ・「歴史的建造物について、もっと広く周知する」が 60% でトップ
- ・「歴史的建造物の改修・改築に対して、建造物の歴史的・景観的な価値が継承されるよう、各種計画に配慮を求める」57%、「所有者が行う維持補修に対して、経費の一部の助成を行う」43%が続く



(5) 東京歴史まちづくりファンドについての都の取組：東京歴史まちづくりファンドへの寄附に対する都民や企業の機運を高めるために、都はどのように取り組むべきだと思うか聞いた。

(本文P57～P59)

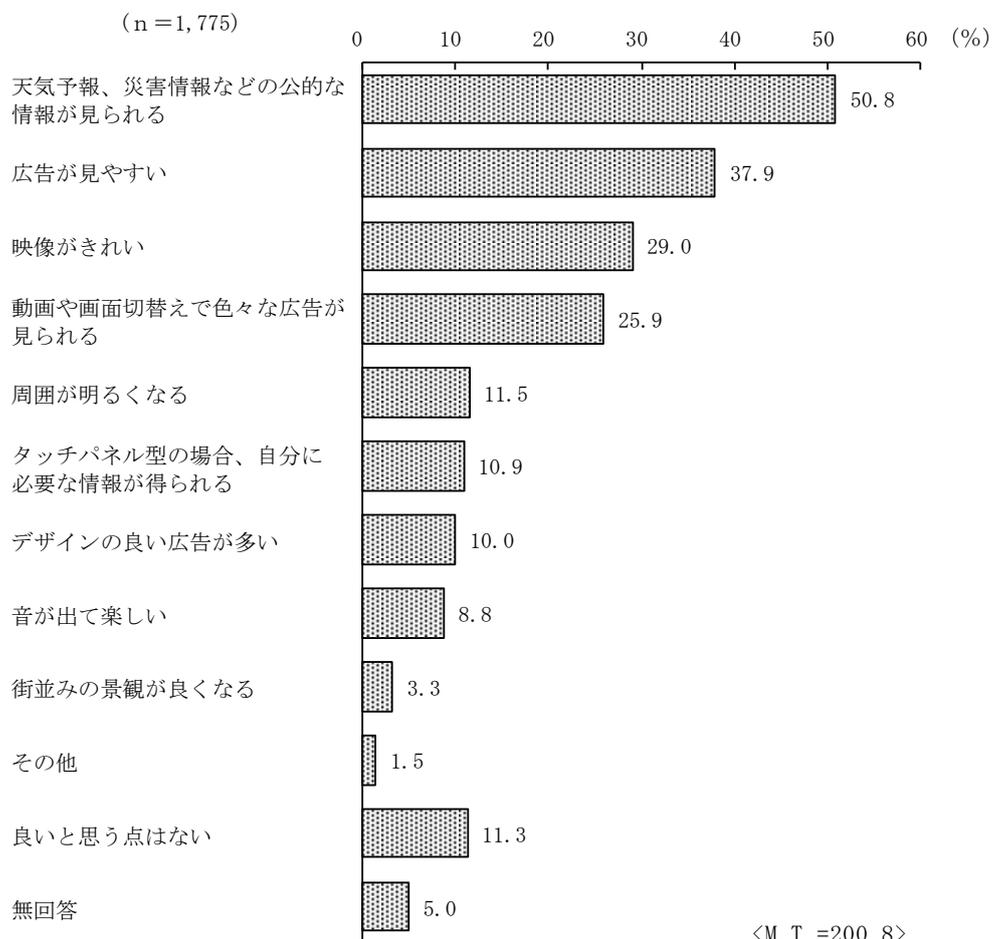
- ・「イベントやツアー等を開催し、都民や企業が歴史的建造物にふれられる機会を増やす」が35%でトップ
- ・「企業と連携して、売上げの一部をファンドに寄附できるなどの仕組みをつくる」29%、「歴史的建造物の存在や重要性をSNSやパンフレット等で広く周知して、寄附を呼びかける」19%が続く



3 東京の屋外広告物：

(1) デジタルサイネージの良い点：屋外のデジタルサイネージの良いと思う点を聞いた。(M. A.)
(本文 P60～P61)

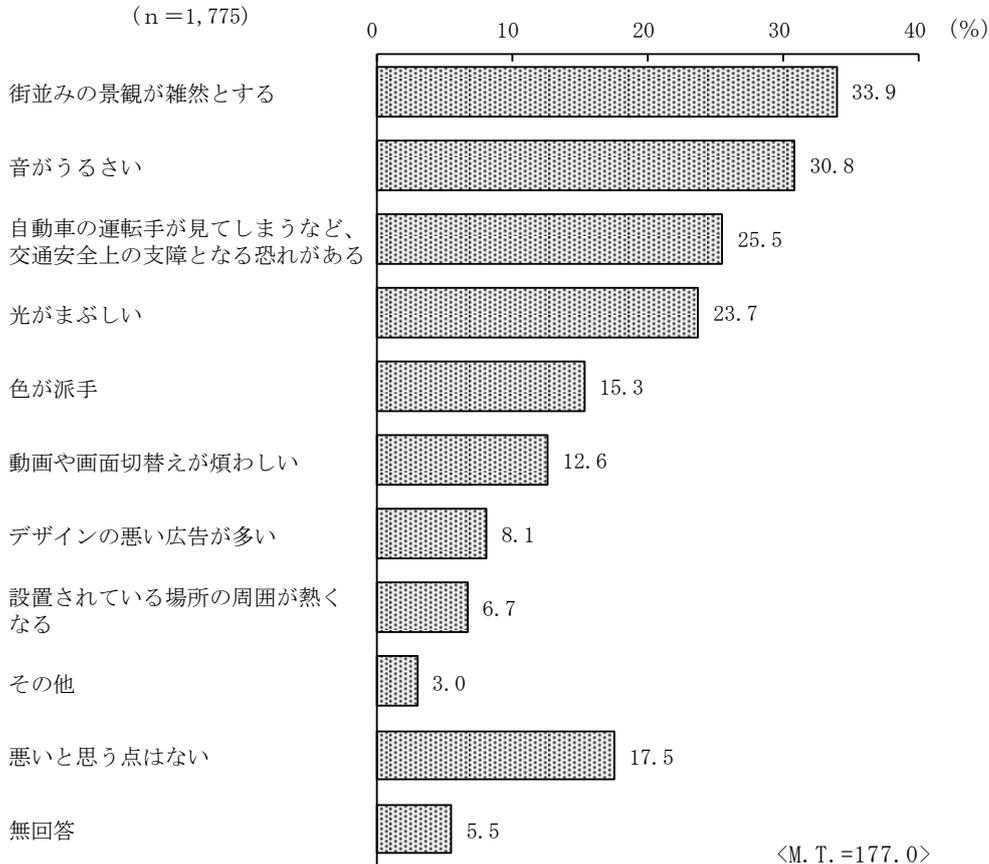
- ・「天気予報、災害情報などの公的な情報が見られる」が51%でトップ
- ・「広告が見やすい」38%、「映像がきれい」29%が続く
- ・「良いと思う点はない」は11%



(2) デジタルサイネージの悪い点：屋外のデジタルサイネージの悪いと思う点を聞いた。(M. A.)

(本文 P 62～ P 63)

- ・「街並みの景観が雑然とする」が 34%でトップ
- ・「音がうるさい」31%、「自動車の運転手が見てしまうなど、交通安全上の支障となる恐れがある」26%が続く
- ・「悪いと思う点はない」は 18%



(3) デジタルサイネージ全般の印象：屋外のデジタルサイネージ全般について、どのように感じているか聞いた。

(本文 P 64～ P 65)

- ・『良い (計)』は 51% (平成 24 年より 9 ポイント減少)
- ・『悪い (計)』は 25% (平成 24 年より 2 ポイント減少)

n	割合 (%)						良い (計)	悪い (計)
	良い	どちらかといえば良い	どちらかといえば悪い	悪い	わからない	無回答		
今回調査 (1,775)	10.5	40.1	18.5	5.9	23.2	1.8	50.5	24.5
平成24年 (2,085)	21.5	38.3	20.0	6.3	13.8	0	59.8	26.4
平成22年 (2,013)	15.4	38.4	23.7	8.3	14.2	0	53.7	32.1

(注 1) 『良い (計)』は「良い」「どちらかといえば良い」の合計

『悪い (計)』は「悪い」「どちらかといえば悪い」の合計

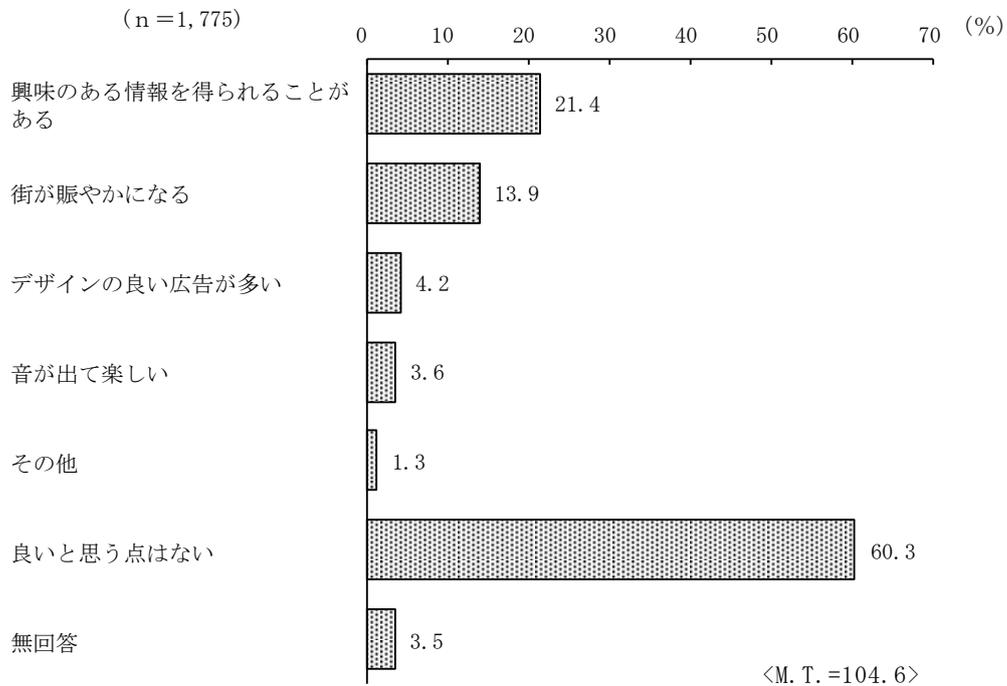
(注 2) デジタルサイネージ全般の印象を平成 24 年まではビジョン広告、電子看板の印象としていた

(注 3) 平成 24 年までの調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回からは郵送法 (インターネット回答併用) に変更したため留意が必要

(4) 広告宣伝車の良い点：広告宣伝車の良いと思う点を聞いた。(M. A.)

(本文 P 66～ P 67)

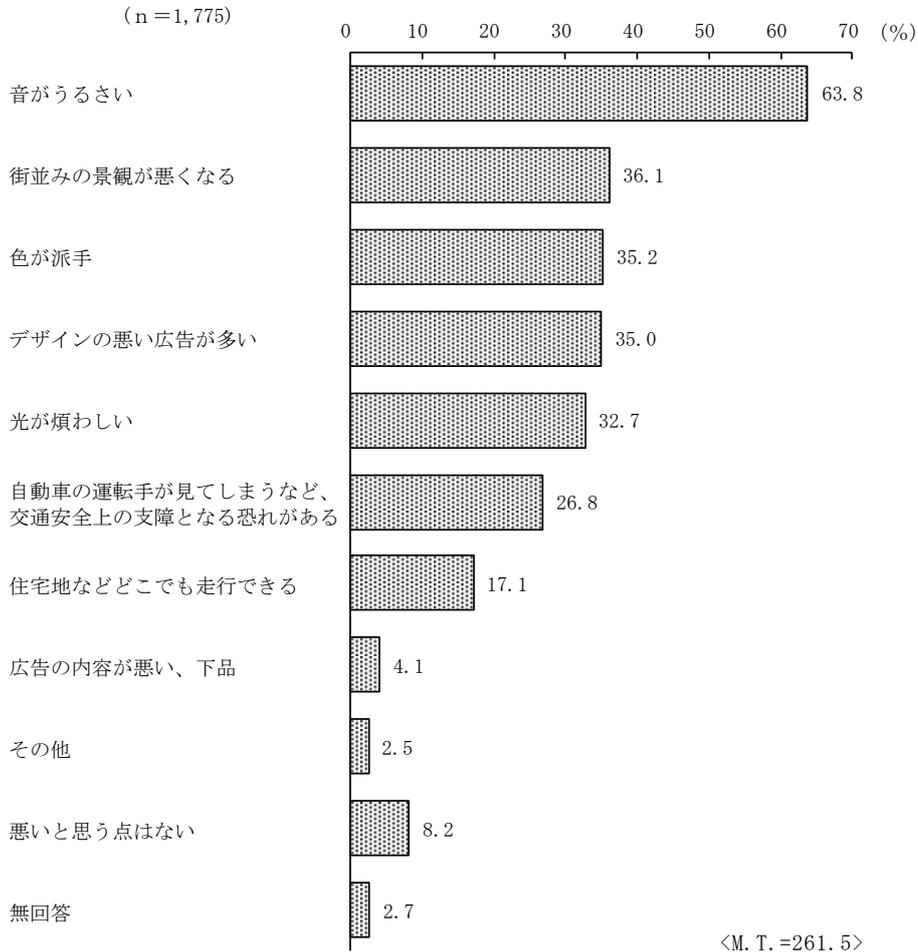
- ・「興味のある情報を得られることがある」が 21%でトップ
- ・「街が賑やかになる」14%、「デザインの良い広告が多い」4%が続く
- ・「良いと思う点はない」は 60%



(5) 広告宣伝車の悪い点：広告宣伝車の悪いと思う点を聞いた。(M. A.)

(本文 P 68～P 69)

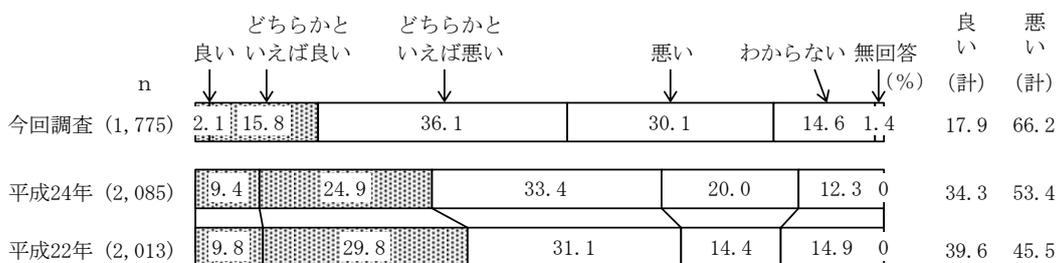
- ・「音がうるさい」が64%でトップ
- ・「街並みの景観が悪くなる」36%、「色が派手」「デザインの悪い広告が多い」35%が続く
- ・「悪いと思う点はない」は8%



(6) 広告宣伝車全般の印象：広告宣伝車全般について、どのように感じているか聞いた。

(本文 P 70～P 71)

- ・『良い (計)』は18% (平成24年より16ポイント減少)
- ・『悪い (計)』は66% (平成24年より13ポイント増加)



(注1) 『良い (計)』は「良い」「どちらかといえは良い」の合計

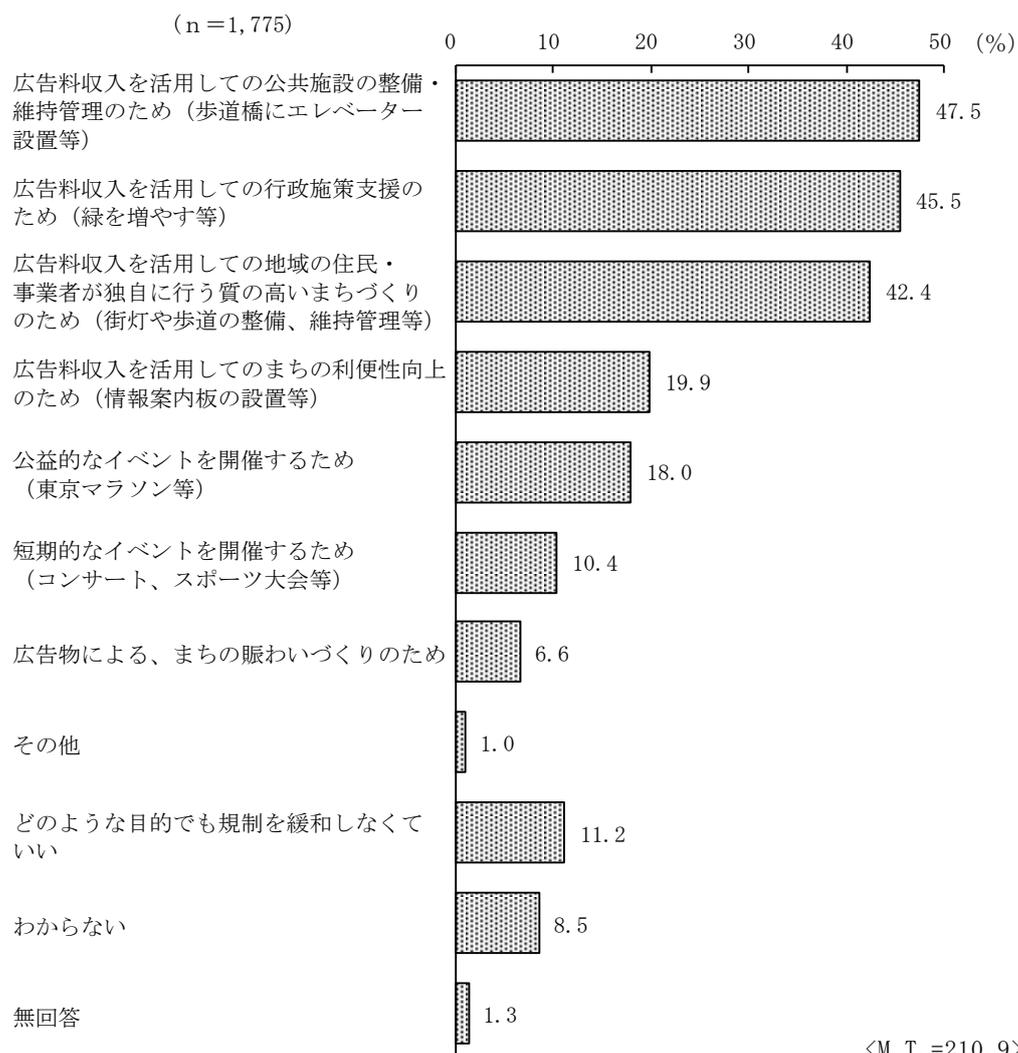
『悪い (計)』は「悪い」「どちらかといえは悪い」の合計

(注2) 平成24年までの調査方法は、調査員による個別訪問面接聴取法であったが、今回からは郵送法 (インターネット回答併用) に変更したため留意が必要

(7) どのような目的であれば屋外広告物規制を緩和してもよいか：どのような目的であれば、屋外広告物規制を一部緩和してもいいと思うか聞いた。(3M. A.)

(本文 P72～P74)

- ・「広告料収入を活用しての公共施設の整備・維持管理のため(歩道橋にエレベーター設置等)」が48%でトップ
- ・「広告料収入を活用しての行政施策支援のため(緑を増やす等)」46%、「広告料収入を活用しての地域の住民・事業者が独自に行う質の高いまちづくりのため(街灯や歩道の整備、維持管理等)」42%が続く



(8) 屋外広告物行政に期待する取組：東京都の屋外広告物行政について、今後、特に取組を期待することを聞いた。(3M. A.)

(本文 P 75～ P 76)

- ・「屋外広告物と景観との調和」が 67%でトップ
- ・「違反屋外広告物への対策強化」51%、「屋外広告物の安全対策」39%が続く

